

□要約

まず、平成 23 年度製図試験に対する自己分析を行い、さらに体験課題(第 1 課題兼用)で心理学的な分析を加えた上で、学習方針カルテを作成する。今までと同じ方法であっても、再度、具体的な目標を立てる。

そして、平成 23 年度よりも成長し、「変わる」ことを決意し、「ドヤ図面」で合格をめざすこと。

□本試験の傾向性分析

zone@学科製図.com です。現在、平成 23 年度を俯瞰しつつ分析し、平成 24 年度に合格するためのプログラムを作成しています。未だ、採点基準は謎に包まれています。方向性として、どのような解答は減点となるのか、少なくとも、それらを踏まえつつ、合格までの道筋を作っていく必要があります。現状から以下の5点の傾向性は間違いなく、これらが合格プログラムの基礎となります。

- (1) あいまいさを残した中途半端な知識や解答は大きく減点されやすい
- (2) 大きなミスをし掛けるようなしくみではなく、細かい減点勝負となっている
- (3) プランニング(動線・ゾーニング含む)は、常識的なレベルがあればよい
- (4) 構造・設備に対する基本的な理解と表現(図面・計画の要点)が必要
- (5) アウトプットとしての図面、要点に自信を持って解答している「ドヤ図面」であること

- (1) あいまいさを残した中途半端な知識や解答は大きく減点されやすい

なんのためにそんな表現をしているのか不明な図面や記述は、明らかに減点しやすいと考えられます。普段の図面や文章表現について、そういったあいまいな記述をしないようにする「詰め」が必要なのですが、それができているかは、一級建築士の基礎であると言えます。

- (2) 大きなミスをし掛けるようなしくみではなく、細かい減点勝負となっている

事前の下馬評では、「〇〇をやれば失格」とか、「〇〇なら大減点」など、大きなミスが仕掛けられているような記述が目につきましたが、実際は、そういったミスでの不合格は少なく、失格も非常に少なくなっています。そういう意味では、項目主義から、よりバランス重視の採点になっていると考えられます。

- (3) プランニング(動線・ゾーニング含む)は、常識的なレベルがあればよい

プランニングの良し悪しについては、長すぎる動線による廊下の引き回しや、大幅なゾーニングミスでない限り、あまり減点されていません。よいプランでも不合格になっていますし、悪いプランでも合格図面が存在するからです。ただし、この「常識的」という非常にアンニュイな表現には、学科製図.comでも分析でききれていないという気持ちも入っています。これらはさらに再現図を分析してまいります。

- (4) 構造・設備に対する基本的な理解と表現(図面・計画の要点)が必要

意匠設計者が構造・設備設計者よりも偏って有利にならない程度に、構造、設備について、基本的な理解と表現が求められています。それだけに、この点を外すと恐らく減点は大きいのではないかと思います。

- (5) アウトプットとしての図面、要点に自信を持って解答している「ドヤ図面」であること

ドヤ顔(大阪弁で言う、自慢げな顔)というのが一部テレビで流行っていますが、図面にも「ドヤ図面」というものがあります。合格図面のオーラと呼ぶべきかもしれません。

減点方式の試験ですから、どうも気持ちまで卑屈になっている方が多いせいでしょうか、図面に迫力がなく、プランニングや記述に自信を感じない解答が目につきます。平成 24 年度の学科製図.com 生は、この「ドヤ」に、こだわっていただきたいと考えています。

□スタートラインは常に自己分析から

では、不合格であったあなたにとって、何が不足していたのか。残念ながら、不足していたから試験という勝負に負けたわけです。この点を分析しないことには、スタートラインに立てません。そこで、もう一度観ていただきたい。学科製図.com が平成 23 年 7 月 22 日段階で「介護老人保健施設」をどのように分析していたか。

<http://gakkaseizu.com/h23bunseki/> 今観ても、I 型ベース(後日修正)以外の部分は、そのまま試験当日までふれない方針であったことがわかると思います。添削生やエスキース読本が手元にある受験生の皆さんは、その延長線上に添削や学習アイテムがあり、まとめの資料があることを実感していただけたと思います。そしてその延長線上に本試験があったわけです。

自己分析するポイントは、

- (1)本試験までの学習方法の分析(どう理解して弱点を発見してつぶしていくかということ)
- (2)本試験当日のための学習方法の分析(本試験で実力が最大限発揮できるためのプレゼの予行演習)
- (3)製図試験に対するメンタルの状態分析(学科製図.com では h23 から導入)

の3点です。これらを自己分析していただき+体験添削課題(第 1 課題)から、学習方針カルテを作成し、本年度学習する上での目標設定をします。大切なのは、「変わる」と決意し、それを行動に移していくことです。

「ドヤ!」と「変わる」あなたが、合格するあなたです。

□学科製図.com を利用する学習計画

もう既に資格学校と契約した方も多いことでしょう。それはそれでかまいません。資格学校で、平成 23 年度よりも変わる自分自身を形成できると思う方はそれでよいと思います。大切なのは、「変わる」と決意し、それを行動に移していくことです。「変わる」あなたが、合格するあなたであることを忘れないことです。

その上で、学科製図.com を利用した学習計画を次頁にフロー化しましたのでご参考下さい。

大きくは、1 月体験添削課題、2 月エスキースステップ学習、3 月-7 月前半戦通信添削 4 課題(模試含む)が前半戦、平成 24 年度課題に即して行う 6 課題(模試含む)が後半戦となります。

また、ケンプラッツでの再現図分析や、再現図面集、体験談集などもご活用してください。

□お申込は本日 12 月 20 日から

来年 1 月 6 日に第 1 課題を兼ねた体験添削課題を公開します。お申込みいただいた方には心理分析を付加した添削を行いますので、ご検討下さい。お申込みは 12 月 20 日からスタートします。また、2 月には、体験添削課題をベースに、エスキースステップ学習コースを開催します。体験添削、エスキースステップ学習コースを受講された上で、前半戦通信添削に申し込むことも可能ですが、その2つが込みになっている前半戦通信添削のほうが少しリーズナブルになっています。また、本試験までをお申込みいただく通期添削コースはさらにディスカウントしておりますのでご検討下さい。

なお、前半戦及び通期通信添削生には人数枠がありますので、満席になった際(過去3回だけあります)は大変申し訳ないですが、お断りすることがありますので、ご了承ください。

また、1 月 6 日までに通信添削お申込みの方で希望者には、早期特典として、エスキースアプローチ、わかるエスキース 2 冊セットをご進呈いたします。通期通信添削生には、1 万円の割引がありますのでご活用ください。

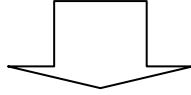
また、このご時世ですので、分割払いのご相談にも応じておりますので、その際は直接メールしてください。

平成 23 年 12 月 20 日

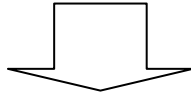
学科製図.com 主宰 曾根 徹



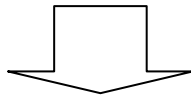
1 月上旬まで 自己分析(勉強方法、当日対策)
 1 月中下旬 学科製図.com **体験添削(PAC 心理分析+学習方針カルテ付)**
 通信添削生は、体験課題を第 1 課題として利用します。



前半戦添削スタート
 2 月中旬 エスキースステップ学習
 4 月 第 2 課題 エスキース重点課題
 5 月 第 3 課題 作図重点課題
 6 月 第 4 課題 読解重点課題
 7 月 前半戦シンクロ二模試
 前半戦の間に、東京、名古屋、大阪、博多等で講習会を予定。



試験課題発表→後半戦添削全 6 課題
 8 月-10 月 5 課題添削+テキスト
 札幌、東京、名古屋、大阪、博多等で夏期/9 月講習会を予定。
 10 月第 1 週 直前シンクロ二模試+直前講習会



10 月 7 日 本試験

前半戦では、心理分析とカルテに基づき、弱点補強しながら、基本力を再度見直します。

後半戦では、h24 課題に対応した課題を分析しつつ解答していく力をつけるように学習をすすめます。

□本年度の特徴について

本年度も「変わる私」をテーマにして、「どや図面」合格プログラムを組みます。
 最も大きな変更は、エスキースステップ学習の復活と U-stream 配信を行うことです。
 またメンタル読本、計画の要点読本のさらなるバージョンアップも合わせて行います。

□費用について

	前半戦通信添削コース			後半戦通信添削	合計	実支払
	体験添削のみ	エスキースステップ	4 課題のみ			
通期添削生	前半戦通信添削コースに込み			75,000	85,000	160,000 150,000
前期添削生	前半戦通信添削コースに込み			75,000	75,000	75,000
個別申込	9,800	19,800	50,000	85,000	164,600	164,600
通信添削コースの教材:エスキース読本、メンタル読本、計画の要点読本、課題+解題+解答例+添削メンバーズサイト、U-stream 等						